



4%の宇宙 宇宙の96%を支配する“見えない物質”と “見えないエネルギー”の正体に迫る

リチャード・パネク著 谷口義明訳

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

ソフトバンククリエイティブ 2,200円+税 376頁

私たちの宇宙は、96%が見えない物質やエネルギーでできている…最近10年あまりの宇宙論の進展で、この驚くような事実がほぼ確定的になってきた。この進展をもたらしたのは幾多の目覚ましい宇宙観測技術だが、その中でも宇宙の膨張が加速していることを示した遠方超新星の観測は最も重要なものの一つだ。

本書は、この宇宙の正体を明らかにしようとい日夜奮闘している人々の研究現場を描いたノンフィクションである。なかでも遠方超新星の観測で加速膨張が発見されていく経緯が、そこにかかわる人々の姿を通じてドラマチックに描かれている。本書を読むと、観測的宇宙論の最前線で何が起きているのかを目の当たりにしたような感覚が味わえる。

著者のリチャード・パネクは研究者ではなく、天文学や宇宙論に強いプロのサイエンスライターである。多くの研究者に綿密で丁寧な取材を行ったとみえ、研究現場の雰囲気がさまざまなエピソードを交えて伝わってくる。

最初に、現代宇宙論が発展してきた近代史が語られる。そこにかかわった人間がどのようなことを考えていたのか、どんな苦勞をして偉大な発見に至ったのかが生々しく描かれている。

その後、遠方超新星の二つの観測研究グループがしのぎを削って熾烈な競争を繰り広げていく様子が克明に描かれる。これが本書の中心的な物語である。今も現場で活躍している研究者の暴露話もあり（当事者にとっては迷惑な本かもしれないが）見物人である読者にとってはエンターテイン

メントとして楽しめる。

ダークマターの観測や検出実験の最前線も紹介されている。そこでも実際の研究現場で研究している人間に焦点が当てられていて、研究の雰囲気がひしひしと伝わってくる。

全体を通して最新の宇宙論の解説が各所にちりばめられているが、難しい説明は極力避けられているので気軽に読めるだろう。この本の主題は研究現場の人間を描くことにあるので、研究対象である宇宙の解説は必要最小限にとどめられている。とはいえ、あまり予備知識をもたない読者でも楽しんで読んでいるうちに大まかな知識が自然と身に付いてしまうだろう。

訳者は観測天文学の著名な研究者で、宇宙に関する一般書も多数出版している。日本語は簡潔で読みやすい。本書には訳者の個性が比較的全面に出ているという特徴もあり、それも合わせて楽しめる。非常に多くの訳注が付けられていて、それらは引用元と同じページに書かれているのでページをたぐる必要がなく便利だ。また本文中には明記されていないが、明らかに訳者による写真や解説がたくさん付け加えられている。

熾烈な研究競争の繰り広げられる科学の最前線で人間臭いドラマを演ずる研究者たち。研究を成功させようとする手を尽くす。悩み、挫折、歓喜、先陣争い。そんな生々しい科学者たちの息吹を間近に感じるこのことのできる貴重な一冊だ。

松原隆彦（名古屋大学基礎理論研究センター）